

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0173600776		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム しらかば		
所在地	苫小牧市ときわ町3丁目4番1号 (電 話) 0144-67-5401		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北一条西5丁目3		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】 ( 20年 9月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年 3月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16人 非常勤 4人 常勤換算 9人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 16,800 円
			暖房費(10～4月)6,000円
敷 金	有 ( 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

### (4) 利用者の概要 ( 11月 4 日現在 )

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名
要介護3	7 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	85 歳	最低 73 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	苫小牧日翔病院、道央佐藤病院、吉田内科、ときわ歯科クリニック
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

樽前山麓のすそ野、道央自動車道苫小牧西インターと国道36号線が交差する街で、散歩コースの1つ弧線橋、雪化粧した樽前山を眺め、反対側は太平洋に面したところで、お花を摘んだり、ゆったりと一人ひとりに合ったペースで、その日、思い思いに町内会、地域住民と交流を図りながら、生活が送れるホームです。家族の来訪も多く、運営にも家族は協力的に参加していただいています。利用者の楽しげな笑い声、おだやかな笑顔が印象的なホームです。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議のメンバーに市の担当者が加わり、地域防災など、討議内容も幅広くそれを活かした取り組みが行なわれつつあります。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に全員で自己評価に取り組み、管理者が纏め上げています。この事が職員の気づき、改善に向けた取り組みにつながっています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	年4回の会議が開催され、地域住民の協力をいただいた中で、防災訓練、報告、反省、改善点などについて話し合われている。さらに定期的な取り組みを期待し、市との連携についてもホームの実情を説明するなど、機会を捉えた取り組みを期待します。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会からも要望をいただいております、利用者の充実した生活の場作りに家族からいただいた意見が、反映されています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運動会、文化祭、買物や散歩などで、地域との交流はされておりますが、さらに地域の一員としての相互交流が図れる取り組みを期待します。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を目指す、ホーム独自の基本理念、運営方針が作成されている。一人ひとりと向き合い、その人らしく、さまざまな機会を利用して、地域で暮らせるよう理念の具現化・実践化に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、職員全員で日々出退時に理念を共有している。理念を基にケアカンファレンスを行ない、ケアの実践の中で活かしています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の運動会、文化祭に参加し、地域の方々と走ったり、歌や踊りを観賞、飛び入りでカラオケに参加したり、交流を深めています。また老人クラブの慰問があり交流が図られています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員全員で取り組み、振り返りや見直しの機会として、評価によって出された事をミーティングで話し合い、改善計画に基づき取り組みが行なわれています。		

苫小牧市 グループホームしらかば

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年4回行ない、地域の方々に協力いただいた中での防火訓練の報告や反省、今後に向けた取り組み、改善点、などについて、話し合わせサービスの向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは困りごと相談や研修会などで指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいます。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の生活の様子や心身の状況を手紙で報告、家族の来訪時には利用者を交えて報告を行ない、来訪の少ない家族には随時電話で報告がなされています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望、苦情は、ホームの改善のために重要視し、機会を捉えて気軽に話し合える関係作りが出来ている。意見箱を設け、苦情などは全体で話し合う体制が出来ています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は比較的少なく、入れ替わりの際は、家族に事情説明し、スタッフ全員でケアの一貫性と影響の緩和の取り組みを行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部の研修は全員参加が出来るように計画がなされ、内部研修は月1回持ち回りで、テーマを決めて今日的課題を中心に行なわれています。また、職員には資格の取得も奨励し支援をしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接したグループホームとの交流が出来始め、利用者とともに、相互交流が行なわれています。また、市グループホーム連絡会主催の研修、連絡、交流、見学の機会を通してサービスの資の向上に活かしています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、日帰り体験など、馴染みの関係作りとともに、利用者の視点に立ち、家族とは利用開始の調整も行なわれています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者との生活場面の共有の中で、喜怒哀楽に関心を寄せ、思いを共感し、支え合いと感謝の関係性を築いています。お互いに安心の出来る関係作り、一人ひとりの状況に合わせ、ともに過ごせる時間が出来ています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1対1を大切に、興味のある事に思いを寄せながら、日々の係わりの中で声かけにより把握、職員で共有するようになっていきます。意思の疎通に困難をきたした時は、家族に相談しながら、思いや、意向の把握に努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヵ月に1回の担当者会議には可能な限り家族にも参加していただき、ケアカンファレンスが開催され、利用者、家族の意見が取り入れた利用者本位の介護計画が作られています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヵ月に1回モニタリングがなされ、利用者の状況変化に合わせた柔軟な見直しがされ、状況に合ったケアが行なわれています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車の調達に苦勞しながらも、買物、病院受診、外出支援など、柔軟な支援がされています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問医による受診のほか、利用者一人ひとりのかかりつけ医の指示を得て、看護職員が、訪問看護ステーションと連携をしながら支援されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、看取り介護について説明があり、看取り指針、重度化に向けた対応方針が整備され、スタッフ、主治医、訪問看護師などと共有されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重し、自然なさりげない対応がされており、利用者のプライバシーを尊重した姿勢が見られ、記録なども記載方法に留意がされています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、日々のゆったりとした暮らしの中で、個別性の気づきを感じながら、支援がされています。		

苫小牧市 グループホームしらかば

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と話し合いながら、献立を決め、食材の買出し、調理、漬物も自家製と、作り方を教わったりしながら、準備や、後かたづけが職員と一緒にこなされています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせた入浴の支援がされ、夜間入浴にも対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりが、役割を持って、出来る範囲で家事を一緒に行ない、買物、縫い物、歌、畑、散歩など、楽しく誘い合える支援がされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日行なうようにしており、利用者の希望があればドライブ、買物、町内の行事などの同行支援が行なわれています。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間21時30分～翌朝6時まで、防犯のため施錠している。日中は見守りで配慮されています。		

苫小牧市 グループホームしらかば

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、地域住民の協力をいただいた中で防火訓練が行なわれ、防災マニュアルも整備されていますが、避難経路、場所などの徹底を町内防災担当者との連携のもと、取り組みを期待します。	○	2階の非常口、センサーなど安全面の取り組みを期待します。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量が、毎日チェック表に記録され、一人ひとりに合わせた支援がされています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはソファが置かれ、利用者みんなで団らんする所もあり、また一人で過ごす場所も確保され、トイレ、浴室など、利用者本位の工夫がされています。	○	床の軋みの解消など、利用者に配慮した取り組みを期待します。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や馴染みの物が持ち込まれ、居心地の良い工夫がされています。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。